



未来創生

木更津トランスフォーメーション(KX)

木更津市第3次基本計画

概要版

令和5年度～令和8年度
(2023年度～2026年度)

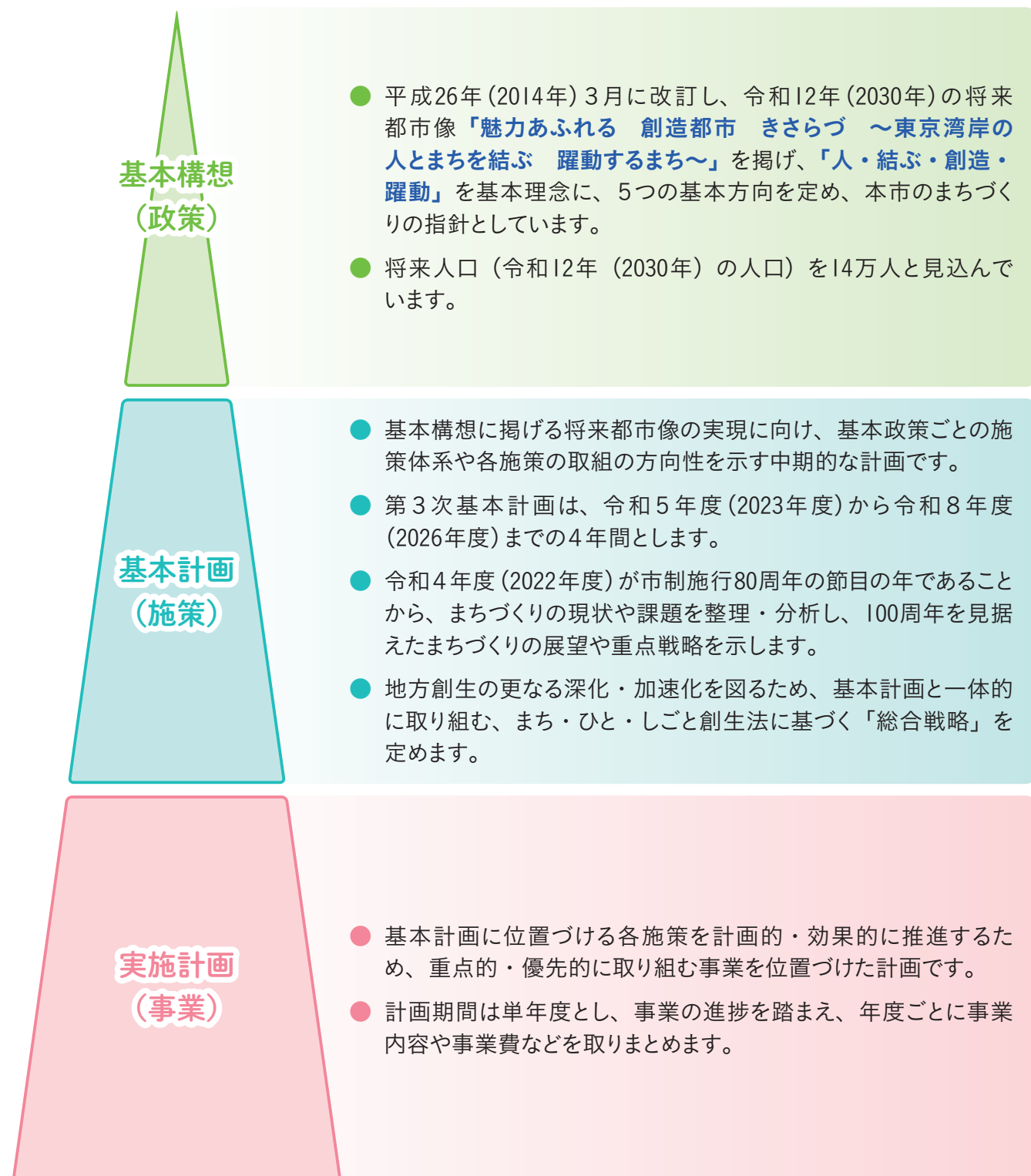
木更津市

1 計画の策定にあたって



1-1 策定趣旨と位置づけ

木更津市総合計画は、本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていく指針となるもので、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3階層で構成されます。

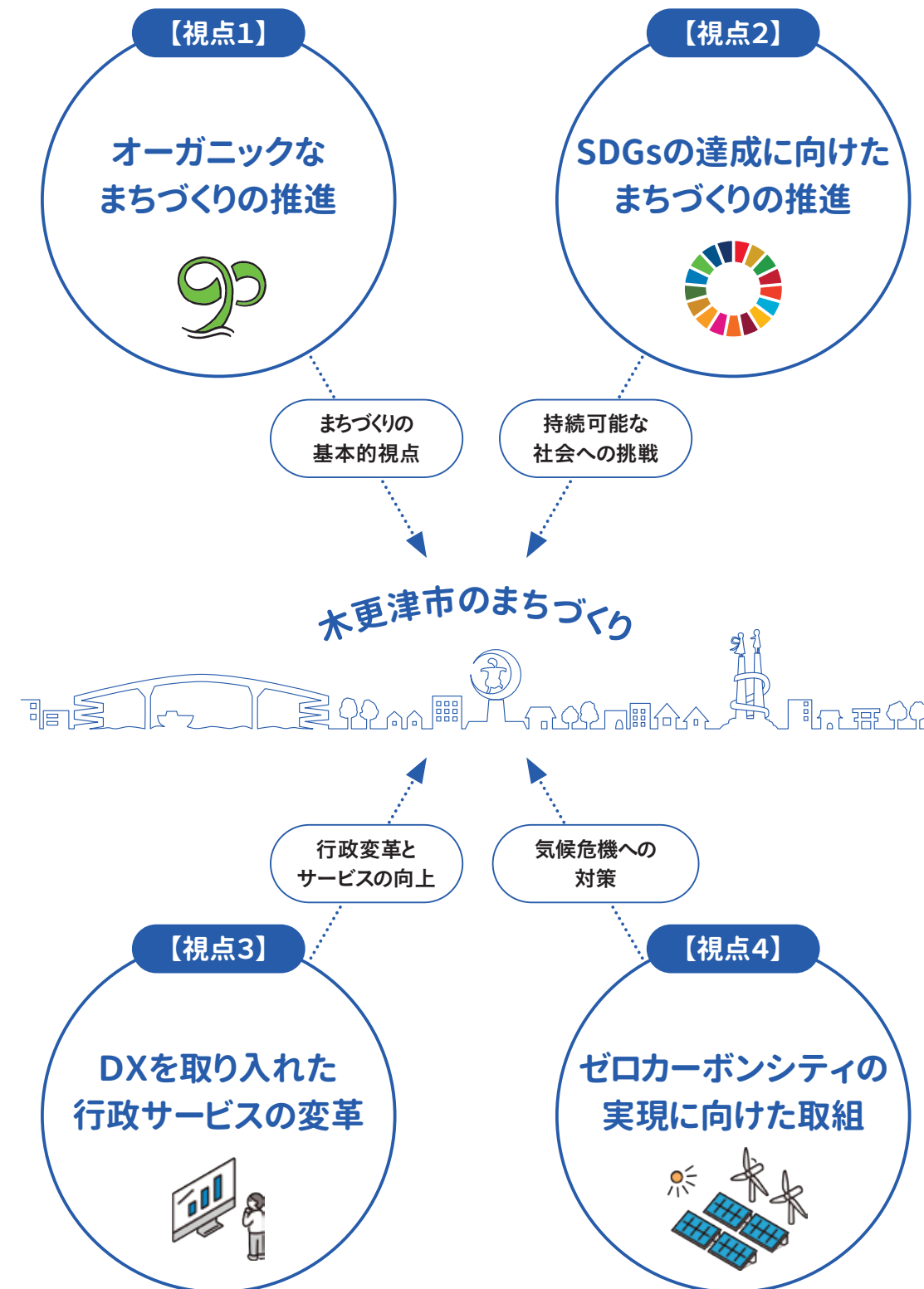


持続可能なまちづくりの推進に向けた基本的視点

未来創生

木更津トランスフォーメーション(KX)

「未来は自分たちで創っていくもの」という認識に立ち、時代の大きな転換期にあっても社会潮流に柔軟に適応した変革し続けるまちを実現させるため、次の4つの基本的視点を掲げました。



1-2 国内の社会経済情勢等の変化

我が国では、人口減少対策や衰退する地方都市の活性化、産業振興の発展をめざしたDX*1の推進、カーボンニュートラルな社会づくりに向けたGX*2に取り組むこととしており、次代へ向けた変革が始まろうとしています。基本計画の策定にあたっては、以下に掲げる時代の潮流を踏まえて策定します。



- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| (1) 時代の大きな変革期 | (6) ウェルビーイング*3志向の高まり |
| (2) 人口減少・少子高齢化の進行 | (7) 価値観やライフスタイルの多様化と地域コミュニティのあり方 |
| (3) デジタル技術の活用による新たな価値の創出 | (8) グローバル化の進展と多文化共生 |
| (4) 地球環境問題の深刻化 | (9) 資源や食料などの海外依存リスク |
| (5) 災害の激甚化に対する危機感の高まり | (10) 成長・分配の好循環と投資・改革 |

*1 DX (デジタル・トランスフォーメーション) : 「Digital Transformation」の略称。変革 (イノベーション) をデジタルの側面から実現するためのあらゆる取組です。

*2 GX (グリーン・トランスフォーメーション) : 「Green Transformation」の略称。温室効果ガスの排出をなくすため、化石燃料を脱炭素燃料や再生可能エネルギーなど温室効果ガスを発生させないグリーンエネルギーに転換して、経済社会システムの変革をめざすことです。

*3 ウェルビーイング : 身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、人々の満足度や充実、幸せなどを表すものです。

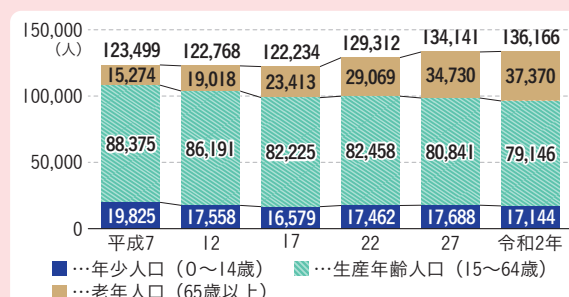
1-3 木更津市のすがた

人口



- 総人口は増加傾向にあり、年齢別の内訳では、年少人口と生産年齢人口は減少し、老年人口が増加しています。
- 合計特殊出生率は1.40以上で推移しており、国や県の平均値より高い水準にあります。

総人口の推移 (資料: 国勢調査)



産業



- 事業所数は、やや減少していますが、「電気・ガス・熱供給・水道業」の分野は3.5倍に増加しています。
- 従業者数は、第2次産業を除き、概ねいずれの産業も増加しています。

事業所数・従業者数の推移 (資料: 経済センサス)

	平成21年	令和3年
事業所数	5,246	5,151
従業者数	47,149	54,574

財政



- 令和3年度決算額は新型コロナウイルス感染症対策の実施により、過去最大の規模となっています。
- 財政力指数は0.8台を維持していますが、実質公債費比率はやや上昇しています。

決算額・財政指標の推移 (資料: 財政課、総務省)

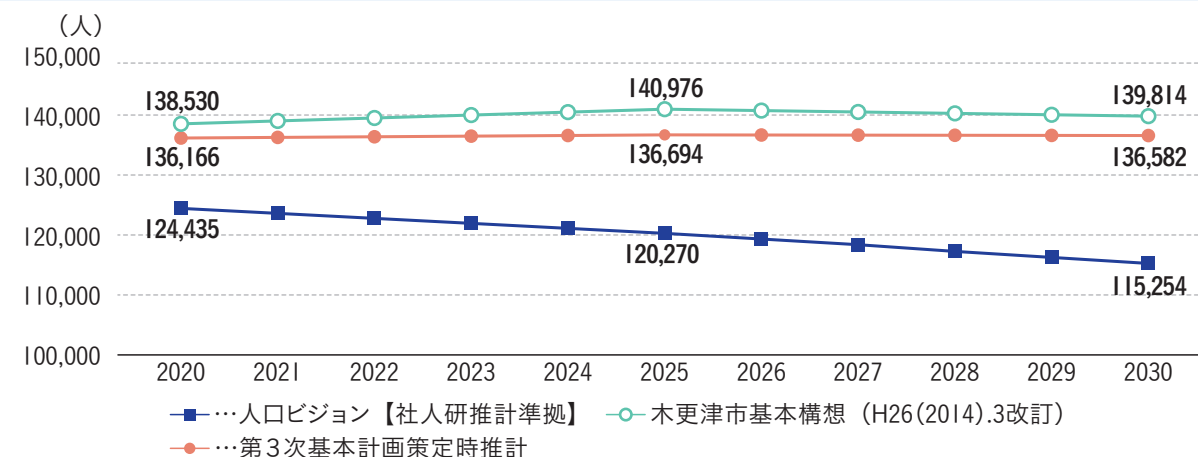
	平成28年度	令和3年度
決算額 (百万円)	39,389	50,394
財政力指数	0.84	0.86
実質公債費比率 (%)	2.3	3.8

1-4 まちづくりの展望

(1) 将来人口の見通し

人口増加に鈍化の傾向がみられますが、金田地区等への子育て世代の流入や外国人の転入が今後も見込まれるなど、これまでのトレンドをしっかりと捉えた移住・定住策を講じることにより、着実な人口増加へつなげ、目標人口である14万人のまちづくりをめざします。

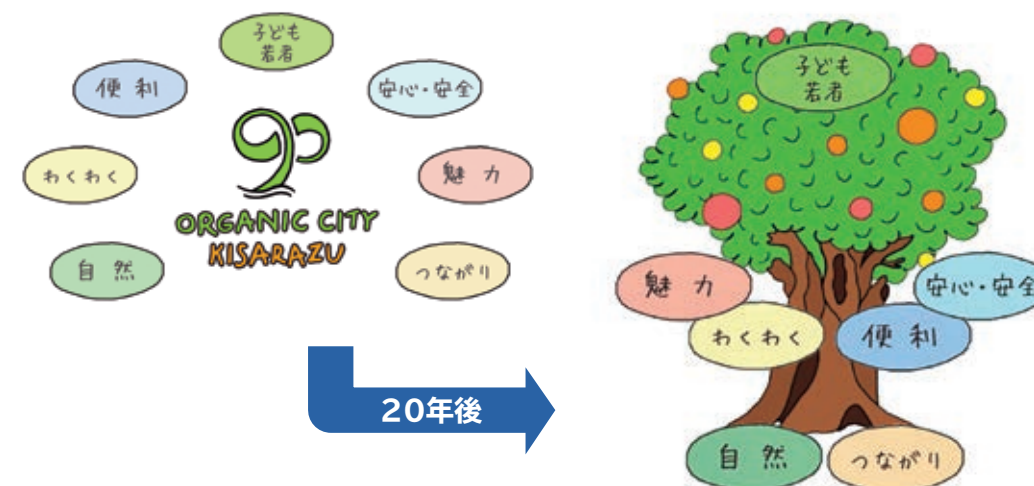
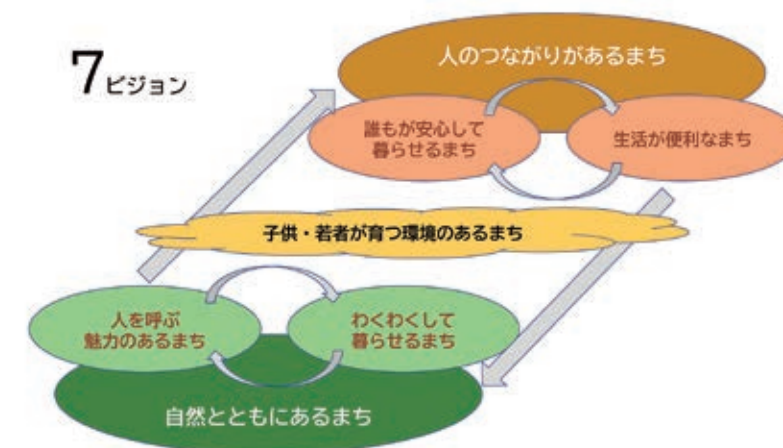
基本構想の目標年次である令和12年(2030年)までの各年の人口推計



(2) 市制施行100周年に向けたきさらづ未来ビジョンの提言

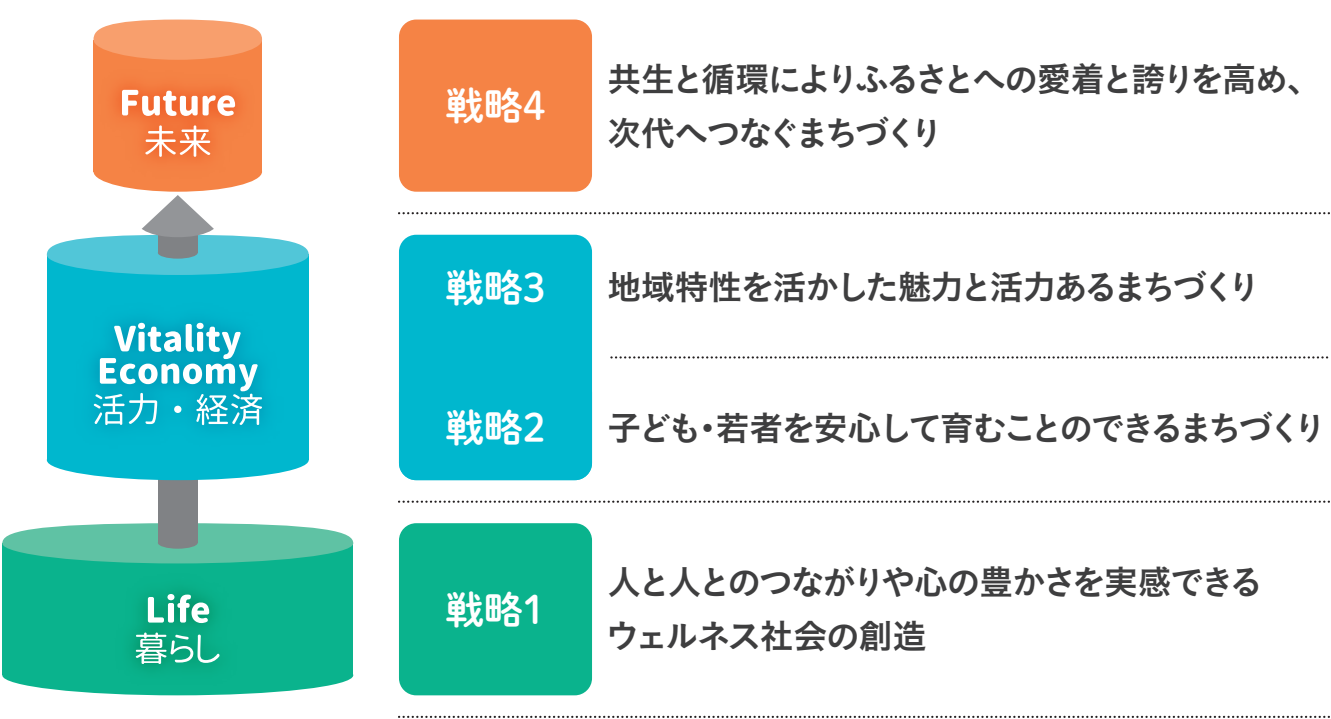
令和4年(2022年)、市制施行80周年という節目の年に、20年後の木更津市を考える「きさらづ未来会議」を開催しました。この取組に共感した42人の市民がワークショップを通じて、7つの未来ビジョンを取りまとめ、市長へ提言書を提出しました。

市では提言の内容を可能な限り市政に反映していきます。



1-5 重点戦略

- 重点戦略は「第3次基本計画」と「第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に共通する今後4年間に取り組む重点事項として位置づけ、一体的に取り組めます。
- 重点戦略は4つの戦略で構成し、関係性は以下のイメージとなります。



戦略1 人と人とのつながりや心の豊かさを実感できるウェルネス社会の創造

- ① 市民一人ひとりが健康で心豊かな暮らしを土台として、安心感や幸福感にあふれ、健全かつ美しい暮らしを享受できる「ウェルネス社会」の実現をめざします。
- ② 市民に潤いのある日常生活を送っていただくために、文化や芸術、スポーツに親しむことのできる環境の整備を進めます。
- ③ 市民一人ひとりが、地域コミュニティのサポートを感じながら安心して暮らすとともに、お互いを認め合い、人と人とのつながりを実感できる共生のまちづくりを進めます。
- ④ 平時から、市・関係機関・市民が連携を図り、災害に備えるとともに、災害発生時に迅速な対応をとれる体制を整えます。
- ⑤ 安心・安全な地域づくりを進めるためには、交通事故防止対策や学校を中心とした地域の交通安全対策、また、身近なところで起こる犯罪の抑止に向けた取組を推進します。

戦略2 子ども・若者を安心して育むことのできるまちづくり

- ① 若い世代が将来に希望を持ち、安心して家庭を築くことのできる環境を整えることにより、「木更津で育てて良かった」、「木更津で育って良かった」と親子が実感できる子育て支援体制を構築し、少子化の流れに歯止めをかけます。
- ② 主体的かつ対話的で深い学びを実現し、「自立する力」と「共生する姿勢」を身につけた児童・生徒を育成します。

戦略3 地域特性を活かした魅力と活力あるまちづくり

- ① 本市の強みや地域資源を活かし、人と自然が調和したまちづくりを更に推進し、多様なライフスタイルを実現できるまちの魅力と求心力を高めます。
- ② 学校給食米100%オーガニック化を基軸とした環境保全型農業を推進し、木更津オーガニックブランドを発信するとともに、地産全消への土台づくりに取り組みます。
- ③ 地域経済を取り巻く環境の変化に対応するために、IT化や経営革新などに積極的に取り組む中小企業を支援し、経営力の底上げを図ります。
- ④ 電子地域通貨「アクアコイン」の活用による消費喚起や域内の経済循環を促進します。
- ⑤ 本市の有する魅力に磨きをかけ、さらに、「新しい日常」の視点を取り入れた、人を呼び込む観光コンテンツの充実を図ります。
- ⑥ 観光地域づくり法人「きさらづDMO」と連携し、オーガニックツーリズムの構築や産業の創出を図ります。

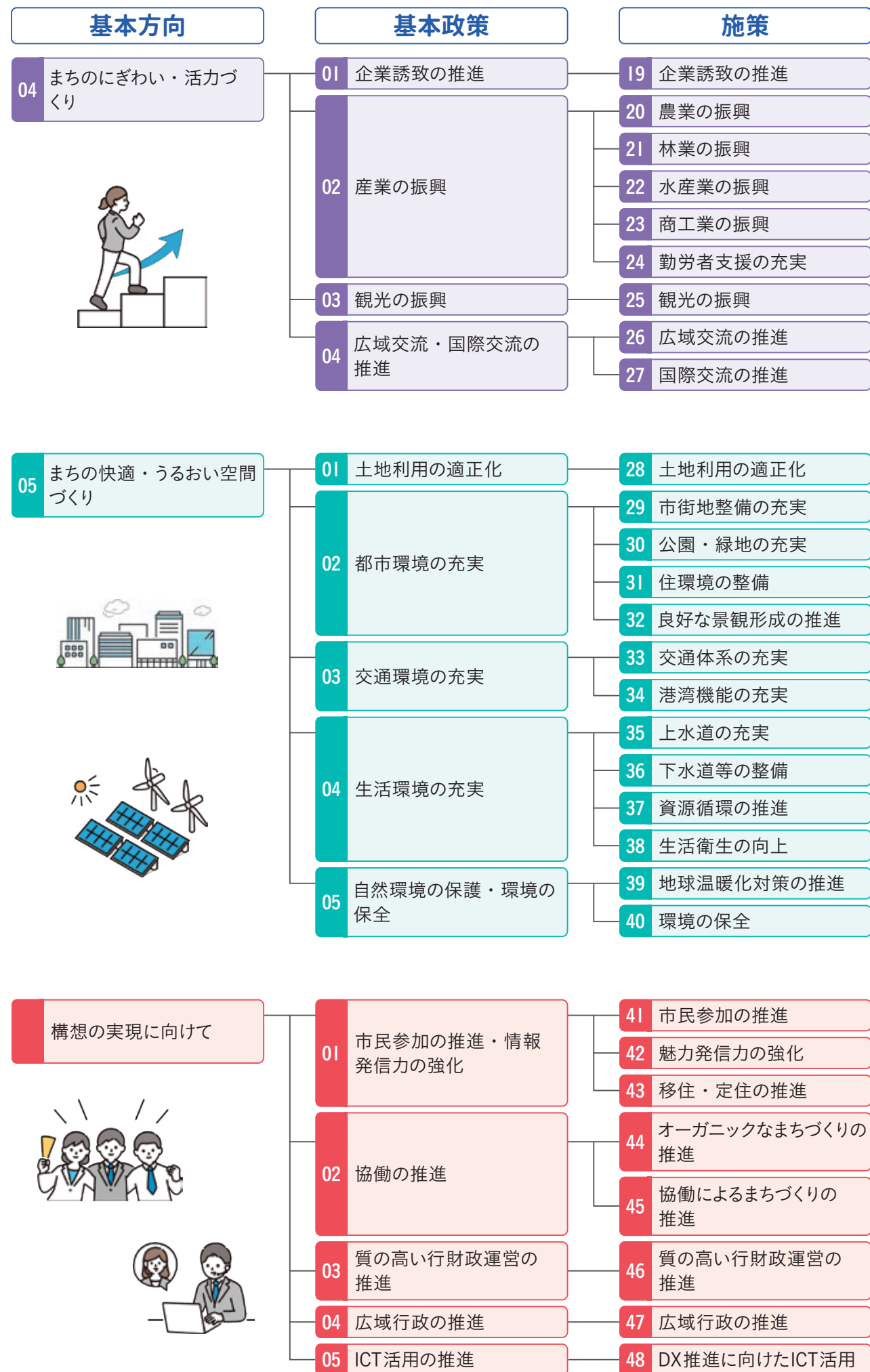
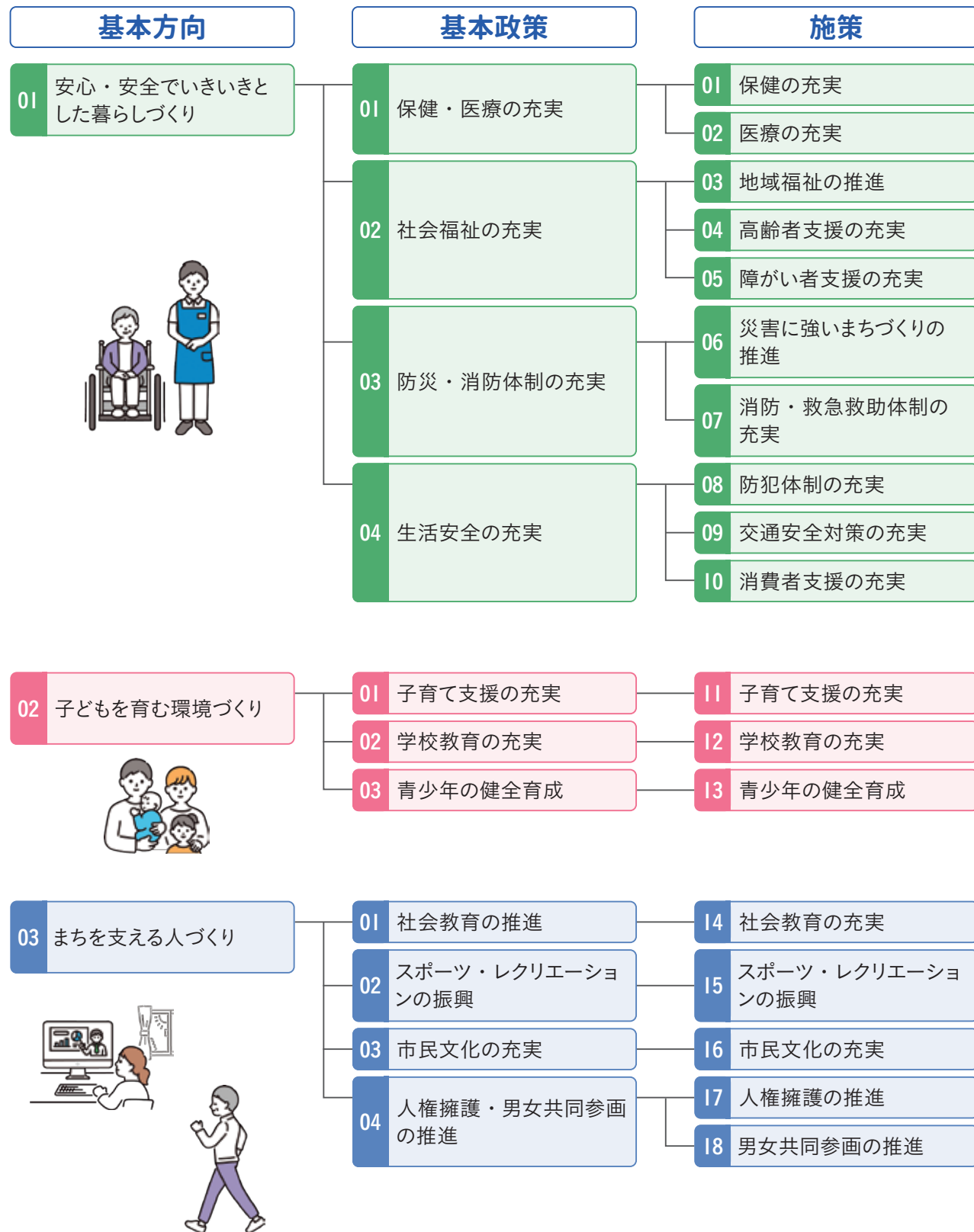
戦略4 共生と循環によりふるさとへの愛着と誇りを高め、次代へつなぐまちづくり

- ① DXを推進し、限られた行政資源の効果的・効率的な運用を持続可能な行財政基盤の構築につなげ、市民サービスの向上を図ります。
- ② 市制施行80周年を迎えた本市が、今後も成熟したまちとして、また、進化し続けるまちとしてあり続けるために、市民主体のまちづくりを進めます。
- ③ 令和3年(2021年)2月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、令和32年(2050年)までに二酸化炭素排出量の実質ゼロをめざし、環境に配慮した循環型社会の実現に取り組めます。
- ④ 足もとにある地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、環境・経済・社会が統合的に循環し、地域の活力が最大限に発揮されることをめざすため、「地域循環共生圏構想」の策定に取り組めます。

2 第3次基本計画 ～施策体系～



第3次基本計画では、基本構想に定める5つの基本方向等に基づき、全48施策に取り組みます。



3 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略

3-1 策定の趣旨

国、県の動向や本市を取り巻く環境の変化を踏まえ、「第3次基本計画・実施計画」との整合を図りながら、令和5年度(2023年度)から令和8年度(2026年度)までの4年間を計画期間とする「第3期木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「第3期総合戦略」という。)を策定し、地方創生の更なる深化、加速化を図ります。

3-2 策定にあたっての視点

第3期総合戦略の策定にあたっては、以下の4つの視点を踏まえます。

視点1

基本計画との一体化

視点2

地域特性や地域資源を活かした
地方版総合戦略

視点3

国の重点施策を勘案

視点4

ポストコロナ時代に対応

3-3 進行管理

「第3期総合戦略」の推進にあたっては、市民をはじめ、関係団体や民間事業者の参画が重要であり、産業界・教育機関・金融機関・労働団体・メディアが連携し、地域一体となった取組を進めていきます。また、毎年度終了後、「PDCAサイクル」に基づく進行管理を実施し、施策等成果の客観的検証や検証結果を踏まえた見直しを行うことで、戦略の実効性を高め、効果的・効率的に推進します。

3-4 第3期総合戦略の基本目標と基本的方向

国や県の総合戦略で定める基本目標を踏まえ、「第2期総合戦略」で根付いた取組の継続性を重視して右の4つの基本目標と基本的方向を定め、地域課題の解決に向け、積極的に取り組めます。

基本目標

1

地域一体となって、
未来を担う「木更津っ子」を育む

活力あふれる持続可能な未来の担い手の創造に向けて、結婚・妊娠・出産から子育てにわたる切れ目のない支援を行い、子どもを安心して産み育てられる環境づくりに取り組み、少子化の流れに歯止めをかけます。

また、本市の特色ある教育環境や地域資源を活かし、地域一体となって郷土愛あふれる「木更津っ子」を育みます。



基本目標

2

多様な地域資源の循環によって、
地域経済を活性化させる

活力あふれる持続可能な地域経済の活性化に向けて、有機野菜などの高付加価値農産物の生産促進や地産地消等を通じた地域内循環に取り組みます。また、観光地域づくり法人「きさらづDMO」と連携し、本市の魅力に磨きをかけ、「新しい日常」の視点を取り入れた人を呼び込む観光コンテンツの充実を図ります。さらに、産業・創業支援センター「らづ-Biz」を拠点とした事業者への包括的な支援を行うとともに、電子地域通貨「アクアコイン」の更なる普及や企業誘致の推進などにより、産業の活性化を図り、地域経済の循環を高め、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、安定した雇用を創出します。

基本目標

3

自然との共生をかなえる、
アクアラインを活かした定住・交流を推進する

本市は、東京湾アクアラインにより都心部や空港への近接性に優れ、交通機能や商業・教育・文化等の都市機能がバランス良く集積する一方、豊かな里山・里海などの自然環境にも恵まれています。

この地理的優位性や地域資源等を活かし、多様なライフスタイルが実現できるまちとして市内外の方々の交流の機会を充実させ、関係人口の創出・拡大を図り、移住・定住の推進につなげていきます。



基本目標

4

市民力・地域力を高め、
持続可能な自立するまちを構築する

持続可能な自立するまち木更津の創造に向けて、市民力・地域力を活かしたまちづくりへの支援の充実や地域が主体となった新たな交通システムの導入・安定的な運営体制の構築を図ります。また、マイナンバーカードやICTの利活用により、市民サービスの向上に取り組めます。

さらに、災害に強いまちづくりや支え合う地域社会の構築に取り組むとともに、誇りある「ふるさと木更津」の豊かな自然環境を守り、共生し、生涯にわたって活躍し、心身ともに健康で生き生きと暮らすことができる地域づくりを推進します。



————— 表紙のデザインについて —————

木更津市がめざす「人と自然が調和した持続可能なまち」をイメージ。

木更津市の里・海・山等の自然資源をはじめ、多様な地域資源を活用しながら、地域の活力が最大限に発揮されていく様子を、様々な大きさ・色・形のブロックで表現し、それぞれが重なり合いつながり合い、調和し、新しい魅力・可能性が生まれていく様子として表現しています。

発行年月：令和5年3月

発行：木更津市

編集：木更津市企画部企画課
〒292-8501

木更津市富士見1丁目2番1号

TEL：0438-23-7468

HPトップ： <https://www.city.kisarazu.lg.jp/>